学校法人 菅原学園
至誠館大学

| | |
|---|---|
| 所　　属 | 現代社会学部　現代社会学科 |
| 専　　攻 | ビジネス文化専攻 |
| 主な担当科目 | 日本語・日本語特講 |
| 氏　　名 | 岡田　美穂 |
| フリガナ | オカダ　ミホ |
| 職　　位 | 准教授 |
| 学 位 等 | 博士（比較社会文化） |

## 研究内容・社会業績等

日本語を第二言語として学習する、日本語学習者の習得に関する研究を行っている。

## 論文・書籍・資格等

＜学位論文＞

1. 修士論文（2004）「日本語学習者の場所を表す名詞を受ける「に」「で」の使い分けに関する研究」
2. 博士論文（2016）「中級レベルの日本語学習者における場所を表す格助詞「に」の習得に関する研究－中国語を母語とする学習者を対象として－」

＜査読有＞

1. 岡田美穂・林田実（2007）「日本語学習者による格助詞の混同－存在場所の「に」と範囲限定の「で」－」,日本語教育論集23号国立国語研究所（p3-15).
2. 岡田美穂・李相穆・志水俊広（2012）「存在場所につくニ格の習得－JFL環境における中国語を母語とする日本語学習者の場合－」, 東アジア日本語・日本文化研究14,（p32-47).
3. 岡田美穂・LindaJOYCE・納富淳子（2014）「中国語を母語とする日本語学習者の移動を表す動詞と共起する「に」の習得に関する研究」, 九州産業大学語学教育研究センター紀要Volume9,（p20-37).
4. 岡田美穂・林田実・李相穆（2014）「存在場所「に」と範囲限定「で」の混同－韓国語を母語とする「中位レベル」の日本語学習者の場合－」, 日本學報第99輯韓國日本學會（p121-135).
5. 岡田美穂・李相穆・志水俊広（2014）「「文頭」に現れる存在場所「に」と範囲限定「で」の混同－中国語を母語とする学習者と韓国語を母語とする学習者－」, 東アジア日本語・日本文化研究18,（p95-114).
6. 岡田美穂（2015）「中国語を母語とする日本語学習者の格助詞「を」の習得に関する研究」, 九州産業大学語学教育研究センター紀要Volume10,（p35-47).
7. 岡田美穂・林田実（2016）「中級レベルの日本語学習者の移動先を表す「に」と場所を表す「で」の習得－中国語話者を対象として－」, 日本語教育163,（p48-63).
8. 岡田美穂（2017）「中級レベルの日本語学習者の格助詞「に」を「で」とする誤用の研究－中国語話者を対象として－」, 九州産業大学語学教育研究センター紀要Volume12,（p64-78).
9. 岡田美穂・林田実・岩田祐佳（2017）「L2 Acquisition of Japanese Case Particle ni Indicating Place of Existence byChinese」, Journal of second and multiple language acquisition. Vol4,Issue4,（p112-126).
10. 岡田美穂・林田実・岩田祐佳（2018）「英語話者による存在場所「に」と範囲限定「で」の混同－中国語話者と韓国語話者のデータと比較して－」, 2016上海外国語大学日本学国際シンポジウム記念論文集（p29-33).

11. 岡田美穂 (2018)「中級レベルの日本語学習者の移動先「に」と範囲限定「で」の混同」, 九州産業大学語学教育研究センター紀要Volume13, (p74-88).
12. Yuka Iwata・Miho Okada (2018)「Teaching Japanese language in tourism and customer service skills」,Journal of Global Tourism Research, Volume 3, Number 2, (p75-80).
13. 岡田美穂 (2020)「中国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の場所を表す「に」の習得ー誤用の減少と母語活用の有無に注目してー」, 東アジア日本語・日本文化研究第27集特別号28, (p53-73).
14. 岡田美穂・李相穆(2021)「韓国語を母語とする中級レベルの日本語学習者の動作場所を表す「で」の習得ー形式と意味に焦点を当ててー」, 東アジア日本語・日本文化研究29, (p37-53).
15. 岡田美穂・李相穆(2022)「中級レベルの日本語学習者の場所を表す「に」の習得ー韓国語話者に対する調査結果からー」, 東アジア言語文化論叢1, (p83-99).
16. 岡田美穂, 朴恵英(2023)「中級レベルの日本語学習者の移動先ニの習得ー「動」から「静」への変化に着目してー」, 東アジア言語文化論叢2,(p35-50).

＜査読無＞
1. 山下髙之・大島まな・木船都・玉置悦子・岡田美穂・他3名 (2003)「学習者のニーズに対応する日本語教育プログラムの実践報告(その1)ー自発的な発話を促す会話集開発を中心にー」, 九州女子大学紀要人文・社会科学編第40巻1, (p33-35及び別冊会話集を担当).
2. 岡田美穂 (2004)「場所名詞を受ける「に」「で」の使い分けに関する研究ー九州女子大学別科日本語学習者の場合ー」, 九州女子大学特別研究報告書大学における日本語教授法の研究. (p29-45).
3. 山下髙之・大島まな・岡田美穂 (2005)「ヴェネチア大学から別科日本語研修課程への短期研修受け入れについてー2003年度と2004年度を終えての報告と考察」九州女子大学紀要人文社会科学編第41巻3号(p65-71を担当).
4. 岡田美穂・奥田俊博 (2015)「場所を表す名詞に下接する格助詞「に」「で」「を」についてー日本語教育の観点に基づく先行研究の整理と課題ー」, 九州共立大学紀要5巻2, (p99-105).
5. 岡田美穂・横山順一・岡野亮介・廣瀬春次・古根川円・金子壽一 (2018)「体系化された教育プログラムの開発に向けた取り組みー初年次教育における課題ー」, 至誠館大学研究紀要第6, (p47-53).
6. 岡田美穂・高橋一榮・廣瀬春次・岡野亮介・横山順一・古根川円・金子壽一 (2019)「体系化された教育プログラムの開発に向けた取り組み(2)ー教材の開発ー」, 至誠館大学研究紀要7. (p49-55).
7. 岡田美穂・高橋一榮 (2021)「教材の開発ー引用ー」, 至誠館大学研究紀要8, (p119-124).
8. 岡田美穂 (2022)「教材の開発ー引用(2)-」, 至誠館大学紀要9, (p73-78).

## 学生へのメッセージ

担当科目：日本語(留学生対象)・日本語特講(留学生対象)・基礎ゼミⅠ～Ⅳ・専門演習・卒業研究指導

・留学生と日本人学生が、レポートを書く力を身につけることを目的とした授業を行っています。
・留学生がJLPTのN1に合格できるように応援しています。空き時間を活用し、練習問題、聴解・文法・語彙ドリル、模擬試験などを一緒にどんどんやっていきましょう